

【参考】

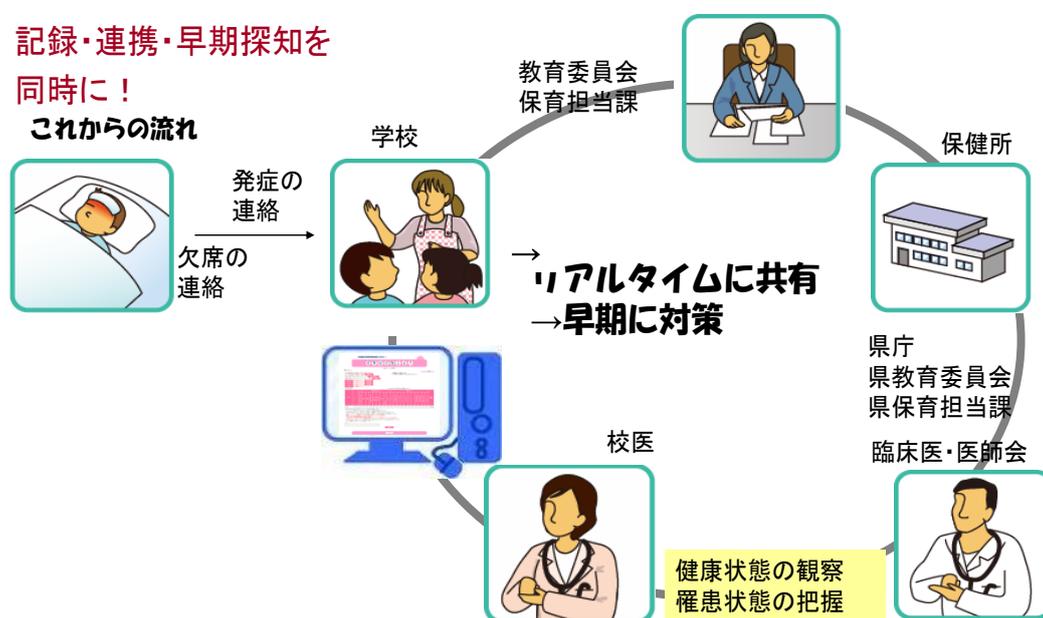
「学校欠席者情報収集システム」の概要

1 「学校欠席者情報収集システム」による感染症対策

「学校欠席者情報収集システム」は、毎日、学校の感染症発生状況を記録（入力）するシステムで、国立感染症研究所感染症情報センターが開発しました。

システムを利用すると、学校内の感染症発生状況が整理され、感染症流行の兆しを的確に捉えることができます。また、関係者間でリアルタイムに感染症情報を共有することにより早期対策が可能となり、学校内の集団感染や二次感染などの感染拡大を抑える効果が期待できます。

「学校欠席者情報収集システム」のイメージ図



2 「学校欠席者情報収集システム」の機能

システムに入力した情報は、次のとおり活用することができます。

(1) 解析資料の自動作成（集計表、グラフ）

学校全体（クラス毎）の感染症の状況が症状別の一覧表で印刷ができ、毎日の管理に役立ちます。

また、クラス毎の出席停止者の推移がグラフ表示でき、適切な感染症対策の時期が判断できます。

(2) 関係者とリアルタイムに情報共有（早期対応可能）

学校で入力した感染症情報が、学校医、教育委員会及び保健所等とリアルタイムに共有できることにより、情報提供資料等の作成時間がなくなり、早期に感染症対策がとれるようになります。

(3) 中学校区の地図情報表示（近隣の感染状況の把握）

現在近隣で流行している感染症の情報が、中学校区の地図情報等で把握できます。